

Change

Change

(執筆者 川上乃愛・藤田彩夏)

1. 団体概要

学生団体 Change は人と人とのつながりを重視して活動する団体であり、2019年6月に発足した。小学生を対象とした交流イベントを企画・運営するほか、他の地域と連携してプロジェクトを企画するなど、様々な活動に取り組んでいる。また、団体活動を通してあらゆる経験を積み重ねていくことで、地域の成長だけでなく大学生自身もスキルアップしていくことを目標としている。

2. 2020年度の活動について

新型コロナウイルス流行前は、前年度から引き続き行ってきた「放課後 house」を中心に活動した。「放課後 house」とは、姫路コミュニティスペース「はこプラス」を拠点とした、地域の子どもたちに居場所を提供するプロジェクトである。具体的な活動内容としては、子どもたちと一緒に手作りカルタで遊んだり、八百屋の職業体験として野菜販売を行ったことなどが挙げられる。

活動が制限されたコロナ禍中には、気軽に外遊びができない子どもたちのために、「オンライン放課後 house」を行った。参加形式は Zoom アプリで、オンライン上でも可能な遊び（絵しりとり、イントロクイズ、マジカルバナナ）を企画し、実施した。団体に所属する学生同士では、Zoom アプリを利用して定期的にオンラインミーティングを行い、今後の活動や団体が目指す方向性について話し合った。新たなプロジェクトを企画してはいるものの、今後の見通しはついておらず、思うように活動できていないのが現状である。現在は週に1回、感染対策を講じながら大学でミーティングを行っている。また、広報活動などを通して新入生の勧誘にも力を入れている。

3. 活動を通して学んだこと

前述のとおり、2020年度は新型コロナウイルスの影響によって多くの活動が制限されたが、「オンライン放課後 house」やオンラインミーティングの実施により、間接的であっても人とのつながりをもつことは可能なのだと分かった。

活動制限が強いられる中で「今自分たちができることは何か」と考えた時、「オンライン放課後 house」を試みた。これまでの活動においてオンライン上で行うことは初めてだったが、保護者の方々のご協力もあり、私たち自身も子どもたちも楽しむことがで

きた。この経験から、人とのつながりをもつためには必ずしも直接的でなくてよいのだと分かり、今後の活動を考える上でのとてもよい学びを得られた。また、定期的なオンラインミーティングも初めてだったが、対面で行っていた時よりも多い頻度で行ったこともあり、団体活動について今まで以上に話し合う時間が増えた。そして、オンラインであっても団体活動を続けることは可能で、良好な関係を築いていけるのだと分かった。

4. 今後の展望

今後は環境人間キャンパス周辺の小学校に通う子どもたちを対象とした、様々なイベントを企画している。初回イベントとしては誰もが楽しめる運動会を企画しており、私たち大学生と子どもたち、そして子どもたち同士のつながりができることを期待している。

今現在も課外活動が禁止されているため、人と接触する機会のある上記のようなイベント企画はいつ実施できるか分からない。そこで、コロナ禍における今だからこそ、学外の人との接触を避けて行えるプロジェクトも考えている。この点に関してはまだ詳しく決まっていないが、団体活動を再開するためにも何か新たな取り組みをしたい、しなければならぬと話している。



図1:野菜販売 (出所) Change 公式 Twitter



図2:オンライン放課後 house (出所) Change 公式 Twitter